情報支援と情報提供

～同行援護従業者養成研修～

かいごの学校
カイゴミライズアカデミー

情報支援と情報提供

視覚障害者は、目から入ってくる情報が少なかったり、あるいは目からの情報がなかったりするため、同行援護従事者など支援してくれる人が見る情報に頼ることになります。そのため援助者から伝わる情報は、援助者の主観的、感情的になりがちなので気を付ける必要がある。

視覚的情報の提供とは

同行援護従事者が、視覚障がい者の目になり物や状況を見て情報を言葉で伝えることです。適切な情報を伝えるということは、その視覚障がい者の方がどのような情報を求めているかを見極め、その情報によって本人が自己決定できるように支援する必要があります。
また、周囲の状況を理解し、声の大きさや内容を配慮することも大事です。
いくら情報を伝えることが大事といっても周りから注目されるようボリュームにならないよう気を付ける必要があります。また、話す内容によってもボリュームに気を付ける必要があります。視覚障がい者の方が恥ずかしくないようにしてください。
個人情報を含む内容には、特に気を付ける必要があります。

言葉による情報提供

視覚障がい者に対する情報提供は「言葉による情報提供」と「体の動きから伝わる情報提供」があります。言葉による情報提供の考え方は以下の通りです。

①伝えるべき情報

移動中の情報は、見えるものや状況を原則としてすべてを言葉にします。ただし、余裕のある時に限ります。安全が第一なのでリスクがあるときには必要以上の情報を伝えない。また、利用者が希望していなくても安全面に関する情報は「伝えるべき情報」として伝える必要があります。

②適切な言葉で伝える

視覚障がい者の方が置かれている状況を的確なタイミングで適切な言葉で伝える必要があります。若者が使う短縮語や略語や流行語で伝わる相手ならよいがそうでない場合は、相手にわかるよう言葉を置き換えて伝える必要があります。また、説明がくどくならないように気を付ける必要もあります。

③情報の優先順位

視覚障がい者の方にとって一番大事な情報は、安全に移動するための情報です。二番目に大切な情報は、移動中の周囲の状況やランドマーク（目印）など、視覚障がい者の方のメンタルマップ作りを手助けする情報です。情報の優先順位を大事にし的確、また適切に情報提供をしていく必要があります。

④日頃からイメージ作りをしておく

「状況説明」は、簡単にできるものではありません。日頃から様々な同行援護での場面を想定して、状況説明の練習が必要です。

移動中の口頭による情報提供①

移動中に伝えるべき情報として以下のものがある。

路面の情報

・コンクリート、砂利道、土、石畳、芝生、などの素材凸凹やくぼみや水たまり、ぬかるみや濡れた鉄板の上など特殊な状態

段差や坂の状況

・横断歩道から歩道に上がる段差、配線コードやホース、上り下りのスロープなど少しの段差でも転倒のリスクになりますので気をつける必要があります。また、下り坂ではひざや腰を痛める原因にもなるのでしっかりと情報提供をする必要があります。

障害になるものを伝える

「放置されている自転車」「違法駐車している車」「歩道に置かれている看板」「陳列された商品」「植木鉢」などの障害物に気を付ける必要があります。場合によっては、「線状ブロック」の上に置かれている場合もあるので十分に気を付ける必要があります。その場合は、しっかりと情報提供を行い障害物を避ける必要があります。また、木の枝やのれんなどにも気を付けてください。急な接触で驚き転倒やストレスになる恐れも考えられます。トンネルに入る際も急に暗くなったり明るくなったりするのでしっかりと情報提供を怠らず行ってください。

移動中の口頭による情報提供②

移動中に伝えるべき情報として以下のものがある。

道路の幅や車の通行量

移動中には、歩いている道路の幅や車や人や自転車などの通行量の情報を伝える必要があります。また、大きな音を出して走っている車やバイク、自転車などの接近も脅かせる原因になります。視覚障がい者の方は聴覚には敏感になっています。また、そこに歩道がなく、今、車道を歩いているのかも視覚障がい者の方にとって精神的な負担になる可能性も考えられます。

メンタルマップを作る為の情報提供

メンタルマップの作成には、出発点から目的地までの情報提供が必要になります。道路や交差点の名前。曲がり角や目標となる建物やお店。常に音が出ている目印（エアコンの室外機など）。次回、その道を歩いた際に前回よりイメージが深くなり、何度も歩いているうちに視覚障がい者の方自身で歩いて移動できるようなるよう情報提供をすることが理想です。そのためには「説明」「音響信号」「触地図」「音声信号」「目印」などの情報提供が重要になってきます。

快適な外出を楽しんでもらうための情報

快適な外出を楽しんでもらうためには、空の色や建物の色。咲いている花の名前や泣いている鳥の声。また、飲食店のにおいや自然の香りなど。季節を感じたり、場所をイメージできる情報をお伝えすることも大事です。ただし、安全に関する情報こそ優先順位の高い情報になりますの注意が必要になります。

視覚的情報の提供を実際やってみよう！！

≪ゲームのルール≫

①グループに分かれます。

②リーダーを決めます。

③リーダー以外の方は、目隠しをします。

④リーダーこちらが用意した「絵」を見ます。

⑤この「絵」を見て目隠ししたメンバーに「絵」の内容を3分で伝えます。

⑥最後に目隠ししているメンバーが目隠しを外し、リーダーの説明したとおりの絵を描いてください。
　5分の使用時間絵をかきます。

※また、リーダーに質問を何度してもOKです！！言語コミュニケーションだけで伝えてください。

伝える時のポイントとしては、「絵を見ていない人はどのような情報を求めているか？何を知りたいと思うだろうか？」といったように、相手の視点に立って考えることが重要です。
合わせて、今回は制限時間があるワークであったため、伝える順番も重要です。

※このワークでは聞く力と伝える力が養えるワークになっています。

状況や場面別での情報提供

【映画鑑賞、演劇など】
映画鑑賞や演劇は、副音声が用意されているものもあります。しかし、用意されているときでも視覚障がい者の方に情報を求められるときもあります。副音声がない場合は、場面や画面の実況中継が必要になります。他の人の邪魔にならないよう声量に気を付ける必要があります。また、事前に下調べをするのが無難である。

【自宅の近くを歩いているとき】
看板や地域の掲示板、工事の予定や新規開店の店などの情報を伝えます。

【食事の為の店内】
店内の様子や座席の配置、メニューと値段、おかれている調味料や配膳する位置など説明する必要があります。

【デパートなどの買い物】
生鮮商品の場合、鮮度や大きさまで伝える必要があります。また、広告の品も伝えてください。

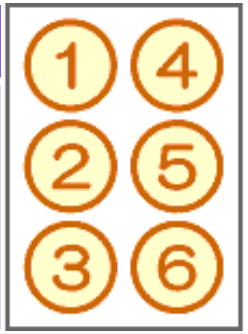
点字を学ぼう！！

≪点字の歴史≫

もともと点字は16世紀のナポレオンの時代に、フランスのバルビエという士官が暗闇の中でも戦いの命令を伝える方法として考え出したことが始まりです。ところがこの点字が、軍事目的だけじゃなく、目の不自由な人のための文字として活用できることに気づきました。
その後、ルイ・ブライユという人が、バルビエの点字に本格的な改良（かいりょう）を加えていまの6つの点を組み合わせる点字が1825年にできました。
日本に点字が入ってきたのはこれより50年以上遅れた1880年。東京盲唖学校長の小西信八という人がブライユの点字を使って、ローマ字表記による日本語を点字にしました。その後同じ学校の先生だった石川倉次が、かな文字48種類をもっと合理的に表すために研究を重ねて、1890年点字組織を発表し、1898年には、拗音組織を加え、現在の6点式の日本語点字組織を完成させました。

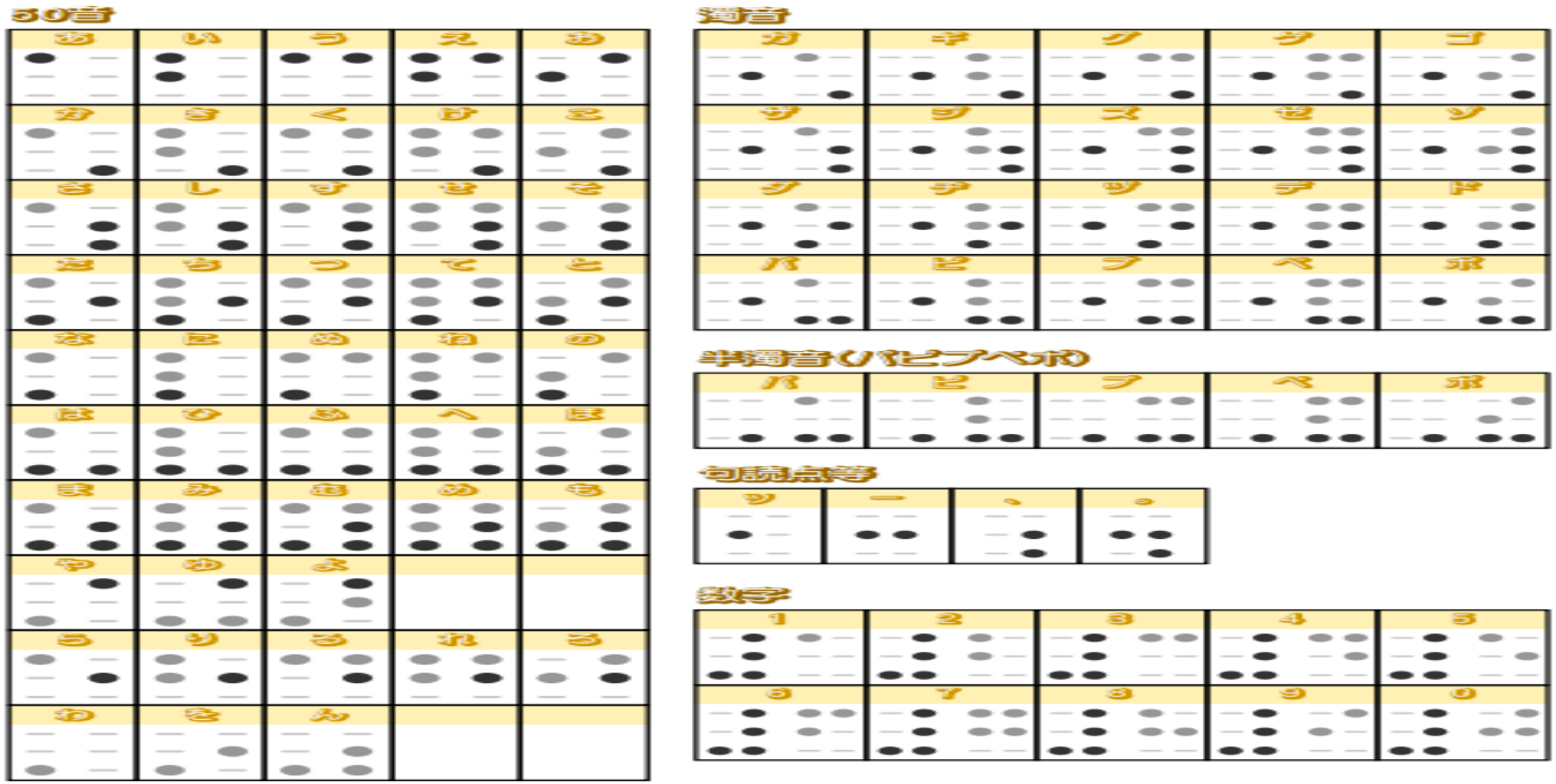
点字の仕組み

点字は、右の図のように、6個の点の組み合わせで表現されています。それぞれに名前をつけて呼ぶとわかりやすいので、数字の名前がつけられています。左上から下に、1の点、2の点、3の点、続いて右上が4の点、そのまま下に、5の点、6の点と呼びます。



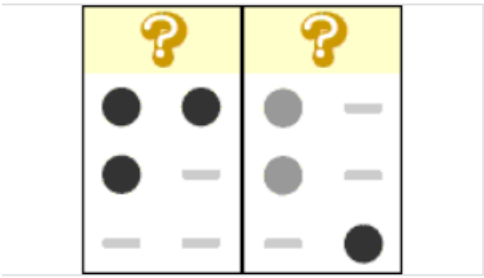
参照：YAHOOJAPAN キッズ：https://kids.yahoo.co.jp/study/integrated/welfare/wel004.html

点字50音



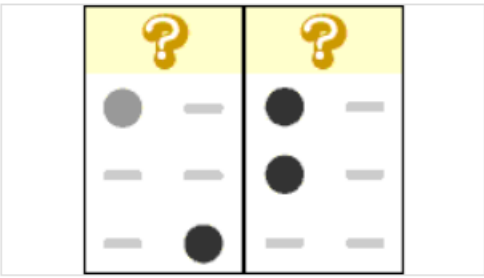
参照：
YAHOOJAPAN
キッズ：
https://kids.yahoo.co.jp/study/integrated/welfare/wel004.html

点字練習問題



問題1

なんて読むのかな？



問題2

なんて読むのかな？

参照：YAHOOJAPAN キッズ：
https://kids.yahoo.co.jp/study/integrated/welfare/wel004.html

それでは実際、点字で文章を作って問題を出してみましょう。
≪ゲームのルール≫
①グループに分かれます。
②主題者を一人決めます。
③作成者を決めます。
④出題者は、「動物の名前」と「一つの動詞」で作ってください。
⑤文章は、と句読点のみ使用してください（濁音、半濁音、数字は使用しない）
⑥その後、出題者と作成者の方以外の人が答えを出します。

☞それではやってみましょう！！